

# 鹿児島大学

## 研究協力校（課程又は障害種）

・鹿児島大学教育学部附属特別支援学校（知的）

## 研究の成果

### 観点Ⅰ：

#### 各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

#### Ⅰ. カリキュラム・マネジメントに係る取組を支える組織づくり

素地として、平成 29 年度は校内研究会等を通して、新学習指導要領の要点を考慮した授業づくりを行うことを職員間で共通理解がはかられてきた。また、夏に開催されたスキルアップセミナーにて地域の小中学校と合同で授業提供を行い、近隣地域でも成果を共有してきている。

平成 30 年度はカリキュラム・マネジメント推進委員会の実施回数を年 5 回から 8 回に増やした。委員についても、新たに支援部の教員や研究主任、副主任等が加わった。その成果の一例としては、支援部の主任を委員に加える等によって、個別の支援計画との連動のあり方等についても検討できるようになったことや、校務分掌の枠組みを超えて検討ができるようになったといった利点があった。このように、カリキュラム・マネジメントに係る取組を支える組織づくりがさらに進められ、組織全体でカリキュラムを変えていく意識の形成につながっている。

## 観点 2：

### 教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価

#### 2-1. 資質・能力を育むための教育課程の編成及び実施

資質・能力を育むための教育課程の編成及び実施のために、平成 29 年度からは、年間指導計画や個別の指導計画、単元指導計画の様式や作成の手順を改めた。平成 30 年度は、改訂した指導計画を用いて授業実践を行い、平成 30 年度 6 月に実施した校内研究会で検証し、課題となった点にさらに改善を加え、平成 31 年 2 月の公開研究会まで使用した。また、年間指導計画、個別の指導計画、単元指導計画、各々の指導計画の相互のつながりを考慮しながら、検討を進めた。

#### 2-2. 個別の指導計画

平成 30 年度は、研究協力校が設定している指導の形態別ではなく、教科等の枠組みで年間目標を示すように改訂した（資料 1）。その背景として、研究協力校が使用してきた従来の個別の指導計画は、指導の形態別に年間目標を示しており、教科別の指導を設けていない教科の内容を単元で扱う場合（例：小学部の生活科、中学部の社会科・理科、職業・家庭科など）は、手がかりとなる情報を得られないという課題があった。そこで、新学習指導要領の内容も踏まえ、教科の枠組みで年間目標を記載する個別の指導計画へと改めた。

各教科等ごとの年間目標を記入する様式に改めた。

※ 小学部は「特別の教科 道徳」を加えた。

児童生徒名	学部・学年	
作成者(担任)	作成日	
児童生徒の実態		
【指導及び支援の手立て】	発達状況	
「年間を通じて身に付けさせたいこと」		
イニ		
教科等名	長期目標	指導の場や機会
国語		
数学		
社会		
理科		
音楽		
美術		
保健体育		
特別活動		
特別の教科 道徳	内容項目	指導の場や機会
「年間を通じて身に付けさせたいこと」の評価		

資料 1 改訂した個別の指導計画（シート 1：年間目標等を記載するシート）

## 2-3. 単元指導計画

平成30年度は、年間指導計画や個別の指導計画とのつながりを考慮し、単元計画に示す事項についてさらに検討した。具体的には、「単元で扱う教科の内容」や「単元で目指したい姿」、「学習活動案」、「資質・能力を育てる観点からの学習活動や手立ての工夫」などを整理して示すようにした（資料2、表1）。

授業計画シート (各教科を含む複数指導) 記入例：高等学校				単元・題材の全体目標		
学年	教科等名	学習指導要領(のページ番号)	単元・題材名	指導時間(実効時間)	教科等	単元・題材の全体目標
1年	国語	高等学校国語 第1章 第1節 第1項	現代文より自由文の読みと表現の鑑賞	15時間(10時間)	国語	現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。
児童生徒名	個人目標			児童生徒名	個人目標	
A	A 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。			B	B 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。	
C	C 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。			D	D 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。	
E	E 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。			F	F 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。	
G	G 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。			H	H 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。	
学習指導要領との対応 (各教科等の内容)				学習活動		
<b>基礎・基本</b> ① 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ② 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ③ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ④ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑤ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑥ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑦ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑧ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑨ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑩ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。				<b>主体性 思考・判断・表現 人間関係</b> ① 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ② 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ③ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ④ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑤ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑥ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑦ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑧ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑨ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑩ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。		
<b>基礎・基本</b> ① 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ② 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ③ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ④ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑤ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑥ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑦ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑧ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑨ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑩ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。				<b>基礎・基本 主体性 思考・判断・表現 人間関係</b> ① 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ② 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ③ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ④ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑤ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑥ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑦ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑧ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑨ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。 ⑩ 現代文の読みと表現の鑑賞を通して、文章の構造や表現の特色を捉え、その意図や効果を理解し、自分の考えを表現する。		

※ 図内のア～オは、表1-7の各項目との対応を示している。

### 資料2 改訂した単元指導計画

表1 単元指導計画の主な変更点

授業計画シートの項目	主な変更点
<b>ア (新規)</b> 教科等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「単元・題材の全体目標」欄の右に新規で加えた。</li> <li>単元で設定する全体目標の達成を目指すことが、どの教科の内容を学習することになるのかを示すために、該当する教科を○で囲むようにした。</li> <li>年間指導計画の「フェイスシート」や「モデルの指導計画」に示してある教科等に準じて付記する。</li> </ul>
<b>イ</b> 学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元で扱う教科の内容について、内容一覧表で系統性を確認し、段階が複数に渡る場合は、最上位の段階の内容を代表として示すようにした（記載内容の増加への対応）。</li> <li>上記の対応を行う場合は、どの段階の内容を扱うか分かるように、代表として示す最上位の段階の内容を記述した後に、扱う段階を示す数字を付記するようになった。</li> <li>年間指導計画の「フェイスシート」に示してある教科等の内容に準じて記入する。</li> </ul>
<b>ウ</b> できるようになってほしいこと(姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」の四つの資質・能力を全て踏まえて記載するための検討過程が複雑だったため、本項目には、「学習指導要領との対応」欄に記載した各教科の内容（「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」の「基礎・基本」に該当するもの）を学習した場合の具体的な姿を記載するようにした。</li> <li>年間指導計画の「モデルの指導計画」の「各教科等で育てたい資質・能力」欄を参考に記入する。</li> </ul>
<b>エ</b> 学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>第Ⅱ期の研究で整理した「汎用的能力を育てる視点」に対応する番号を付記することを止め、具体的な学習活動のみを記載するようにした。</li> <li>年間指導計画の「モデルの指導計画」の「中心的な学習活動」欄を参考に記入する。</li> </ul>
<b>オ (新規)</b> 「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」を育てるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習活動」欄に記載する内容と対応させながら、「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」を育てるための学習活動や手立ての設定に関する具体的な工夫を記載するようにした。</li> <li>本項目の検討に当たっては、「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」に基づいて各学部が整理した「各学部の授業で目指したい姿」を十分に踏まえることにした。</li> <li>年間指導計画の「モデルの指導計画」の「学習活動の工夫」欄を参考に記入する。</li> </ul>

## 2-4. 教科等反省用紙による検討を年間指導計画の評価に生かす

教科等反省で使用する記録用紙（表2）の様式を整え、年間を通して使用した。平成29年度は、教科等反省用紙を用いた学年末の検討は学部会の中で実施されたが、検討する時間が十分ではなかったため、平成30年度は既存の学部会とは別に機会を設けた。教科等反省用紙を用いた検討の成果としては、「年間指導計画に示されているどの内容を評価することになるか」等を教員間で共有できたことや、年間指導計画の評価が円滑行われたこと等が挙げられる。

表2 教科等反省用紙

単元(題材)名	基にした指導計画	実施時期	実施 時数	必要 時数	目指した児童生徒の姿 ＜「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」＞
つくって たべよう	新	適	10	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調理に用いる道具や器具の適切な扱い方に慣れ、安全に使用したり使用した道具の後片付けをしたりする姿</li> <li>○ 調理の材料を図書等を用いて調べる方法を使って、材料の個数等を表に整理し、調理計画を立てる姿</li> <li>○ 調べたことが書かれてある調理メモを基に、計量カップを用いて必要な量を確認しようとする姿</li> </ul>
実践を振り返って ＜この学習活動、手立てなどがよかった！＞					料理本を見ながら、材料の個数や量を調べる活動や、それを基にして量を計量カップで正しく量る活動に取り組むことが、おいしく作るためには材料の個数や量への着目、それを確かめる道具等への知識・技能へとつながった。
学部あるいは教科等部で検討してほしい事柄					

### 観点3：

#### 個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

### 3. 教育課程の検討を行ったことの副次的成果

個のニーズに合わせた指導法や学習環境・支援に関して研究の中でとりわけ取り組まれているわけではないが、教育課程の編成を行う一連の研究の中で、日々の授業研究が連続的に行われており、それが副次的ではあるが、個のニーズに応じた指導法や学習活動、手立て等の見直しをはかることにつながっている。

#### 観点4：

#### 障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

#### 4. 近隣の小中高等 学校、保育所等との交流

研究協力校の所在地域の学校・園との交流及び共同学習を行った。また、毎年11月ごろに行われる「ふとくフェスティバル」において、鹿児島大学教育学部附属小・中学校の児童生徒や保護者、地域の方々に向けて販売活動を行った。

中学部においては、1月から2月にかけて、生活単元学習「幼児と遊ぼう」を設定し、地域の保育園で、幼児がわかるような話し方を工夫しながら関わる活動を行った。学習の中で学んだゴムや風、電気や磁石などの働きを生かして製作した玩具を用いて交流を行うことで、生徒たちが仕組みを説明したり、一緒に遊んだりすることができた（資料3）。



資料3 幼児に遊び方を伝えて関わる様子



## 観点 5：

### 多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

#### 5-1. ビデオ撮影を用いた評価

日々の授業の様子をデジタルビデオカメラで撮影している。ビデオ撮影による記録を残すことで、文字だけでなく動画を通して、客観的な視点で児童生徒が振り返ることが可能となった（詳細は平成29年度の報告書参照）。ビデオ撮影した映像は、教員が日々の授業の中で児童生徒の学びの姿を評価する際にも使用された。評価及び分析に当たっては、「本校で育てたい資質・能力」と学習評価の3観点を踏まえて検討・作成した評価基準を用いた。その結果、調べ学習を通して新たな知識を得る姿や、知っていることと調べたことを比較して、特徴の似ているところや違うところに気付く姿、わかったことを自分なりの方法で伝える姿、自分や他者の意見を比較することで自分の良さや課題に気付く姿などが確認された。このような評価及び分析に基づき、学習活動や手立ての有効性と改善案の検討が行われた。

#### 5-2. アンケートによる評価

学校評価の中に、カリキュラム・マネジメントの項目をいれ、保護者や外部委員会にアンケート等で評価を受けた。また、学校内でも教員にアンケートを実施し、改訂中の教育課程や指導計画の有用性を確かめ、適宜改善をはかった。

## 観点 6：

### 新学習指導要領に対応した特色ある取組

#### 6. 学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメント推進委員会を軸に学校全体で教育課程の検討を行っている。検討された教育課程を日々の授業で用い、評価基準を基に児童生徒の学習評価と教育課程の評価を行い、さらに教育課程や授業の改善につなげており、評価から教育課程の改善まで連動した取組である。